

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 温根内 通信

——— 2024 年 1 月号 No.328

1 月 15 日（月）発行 ———



湿原照らす初日の出

新しい年が始まりました。

元旦は頑張って早起きし、夜明け前から新雪の積もる温根内木道を歩いてみました。日の出時刻になっても水平線に雲がかかり、どうかなと思って待っていると、その雲の間から放射状に光を放つ初日の出を拝むことができました。

キンと張りつめた空気が温かな日の出を迎えているようでした。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（12/15～1/14） ☆☆☆



【エゾシカ】

シカ科 蝦夷鹿

オスには立派な角が生え、とても大きな体つきです。冬毛に変わり全身黒っぽい色をしています。



【エゾシカの体毛】

木道を注意深く歩いていると、時々こうして体毛が落ちていきます。何らかの理由で抜け落ちたと思われます。



【キツツキ類の食痕】

木道上に樹皮が散乱していました。キツツキ類が樹皮の下に隠れている虫などを捕えて食べる際に散らかした痕跡です。



【ミソサザイ】 夏鳥（一部越冬？）

ミソサザイ科 鷓鴣

木道の下からひょこっと現れました。近年、冬でも見かけるようになり、越冬していると思われます。



【セグロセキレイ】 夏鳥（一部越冬）

セキレイ科 背黒鵲鴿

日本固有種。毎年のように鶴居軌道跡の水辺で見られ、こちらでも越冬している個体だと思われます。



絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【オオワシ】 冬鳥

タカ科 大鷲

ビューン、という羽音とともに頭上を通過していきました。近くで見るとその迫力に圧倒されます。

○温根内木道周辺で観察された鳥（12/15～1/14）

鳥（和名は日本鳥類目録第7版の順）		7	コゲラ	14	ハシブトガラ	21	ミソサザイ
1	タンチョウ	8	オオアカゲラ	15	ヒガラ	22	トラツグミ
2	トビ	9	アカゲラ	16	シジュウカラ	23	ツグミ
3	オジロワシ	10	クマゲラ	17	ヒヨドリ	24	セグロセキレイ
4	オオワシ	11	カケス	18	エナガ	25	マヒワ
5	ハイイロチュウヒ	12	ハシボソガラス	19	ゴジュウカラ	26	ベニヒワ
6	ノスリ	13	ハシブトガラス	20	キバシリ	27	シメ

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「湿原アニマルトラッキング」1月14日 参加者：15名 講師：貞國利夫（釧路市立博物館）

鳥類・哺乳類のスペシャリスト、釧路市立博物館学芸員の貞國氏に講師をお願いし、湿原に残された動物たちの痕跡を探して歩くイベントを開催しました。館内で講師から動物ごとの特徴や、屋外での痕跡探しのコツなどを教わった後、さっそく木道を歩き出し、参加者にも痕跡を探してもらいながら進んでいきました。この日は固い雪が覆い、足跡を探すにはあいにくのコンディションでしたが、エゾシカやキタキツネと思われる足跡は数多く残っており、講師からそ



れらの見分け方や歩き方の特徴などを教えていただきました。また、キタキツネと思われる糞が落ちており、ネズミの体毛のようなものが糞に含まれているのがわかりました。樹木の幹をよく見ると、キツツキの仲間が嘴で突いた跡や、エゾシカが角を研いだと思われるひっかき傷が見つかりました。そして散策中、マヒワの群れに出会い、その姿をしばらく観察していると、なんとそこに滅多に見られないハイロチュウヒが現れて一同びっくり。ネズミ類を捕えるイメージの本種でしたが、鳥の群れを襲う姿に講師も驚いていました。イベントの最後に、予め隠しておいた動物のぬいぐるみ探しを行いました。子どもたちも夢中になって探し、あっという間にすべてのぬいぐるみが見つかってしまいました。講師にはそれぞれの生態を解説していただき、この日のイベントは無事に終了しました。



☆☆☆ 番外トピック 鶴居村に意外なツルがやってきた！ ☆☆☆

12月、鶴居村内の給餌場にマナツルという珍しいツルが紛れ込んでいるという情報を耳にし、ぜひ見てみようとして、まず給餌場の一つ、鶴見台へ行ってみました。

鶴見台に着くと、既にたくさんのタンチョウが集まっていました。その群れの中に、全身グレーで明らかに大きさの違うツルがいるのがすぐ目に入りました。「おお、あれがマナツルか！」と、マナツルを見たことのない私は夢中でシャッターを切ります。しかし、写真を撮りなが

ら、「マナツルってあんなに小さいものなのか…？」という思いが頭をよぎります。そのツルは大きさがタンチョウよりもかなり小さく、その日はしきりにタンチョウからちょっかいをかけられていました。そして、モヤモヤした思いを抱えて数時間経った後、よくよく自分の撮った写真を見ていると、

「…やっぱりこれはマナツルではないぞ？」

と（ようやく）気づいたのでした。それから自分が撮った



鶴見台にいた小型のツル
（後にカナダツルと判明）



タンチョウに追い回されるカナダツル

たツルの特徴を調べていくうち、どうもこれはカナダツルではないかと思い始めます。そこで、毎年バードウォッチングのイベントの講師をお願いしている、音成邦仁さんに写真を確認してもらったところ、「間違いなくこれはカナダツルです」とのお返事をいただきました（！）

カナダヅルは、北米やシベリアで繁殖する鳥で、国内では稀な冬鳥として観察されているそうです。

さて後日、もう一つの給餌場、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに行ってみたところ、マナヅルもしっかり見ることができました。こちらはタンチョウより少し体が小さい程度で、タンチョウの群れの中でも堂々としていました。鹿児島県出水市が越冬地として有名ですが、稀に今回のように渡りの途中で



タンチョウサンクチュアリのマナヅル

迷い込んでしまう個体がいるようです。

このマナヅルとカナダヅルは、それぞれタンチョウサンクチュアリと鶴見台に定着し、1月11日現在でも確認できています。2羽はこのままタンチョウと一緒に冬を越すのでしょうか…？それはともかく、鶴居村でタンチョウ以外の野生のツルが2種も見られることはなかなかありません。そして今後もこんなチャンスは滅多にはないでしょう。ぜひこの機会に足を運んで、ツル科の鳥類の違いなどもじっくりと観察してみたいと思います。私もこれからこの2羽を見守っていきたいと思います。

(温根内ビジターセンター指導員 藤原伸也)



参考文献：北海道野鳥図鑑（亜璃西社）

日本の鳥 550 水辺の鳥（文一出版）

☆☆☆☆ イベントのご案内（2月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎ 0154-65-2323

♪ 湿原の裏山でスノーシューハイク

〔日時〕2月11日（日）10：00～12：00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）〔参加費〕無料〔場所〕温根内ビジターセンター
残雪の裏山をスノーシューで歩き、雪解けを待つ植物などを観察します。



○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪ 蝶の森スノーシューハイク

〔日時〕2月3日（土）10：00～12：00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔集合場所〕シラルトロ自然情報館駐車場

～木道の工事を進めています～

木道の改修工事を行っています。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。今回は工事の範囲が途中で変わる予定です。当センターに直接お問い合わせいただくか、Facebook等でも最新情報をお知らせいたしますので、チェックしてみてください。

月刊 温根内通信 No. 328

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料